



INTERVIEW

## 福島で、実現する。

あなたが実現したいことは、なんですか？



行政事務

2021 年度新規採用職員インタビュー

「県民に寄り添える職員になるために

ベストな選択を追い求めて」

所属

観光交流局

観光交流課

Q. 現在の仕事内容とそのやりがいについて教えてください。

A. 観光交流課では、国内外からの観光誘客の推進や教育旅行の誘致など、本県の観光振興に向けた業務を担っています。その中でも私はインバウンド担当として、主に海外からの観光誘客に取り組んでいます。担当する国によって旅行へのニーズや嗜好が異なるため、誰に何をどういった切り口で発信するか、頭を悩ませることも多いですが、事業者との協議を重ね、県の方針を固める過程は学ぶことも多く、やりがいを感じます。

Q. 福島県職員として、実現したいこと、目標としていることは何ですか。

A. 県職員としての私の目標は、県民に寄り添える職員になることです。公務員の第一義的な役割は、住民サービス全体の向上であるため、公平性・中立性の観点から、全ての県民や事業者の方々に対し、平等に接しようとする、どうしても対応が事務的になってしまう側面があります。そのような中でも現場で頭を悩ませている地域事業者の方々や県民の方々の声に耳を傾け、地域のために県としてできるベストの選択を日々追い求めながら、業務に励みたいと考えています。



↑サポート職員と打ち合わせ中。

新採用職員サポート制度については、パンフレットにも記事を掲載しています。

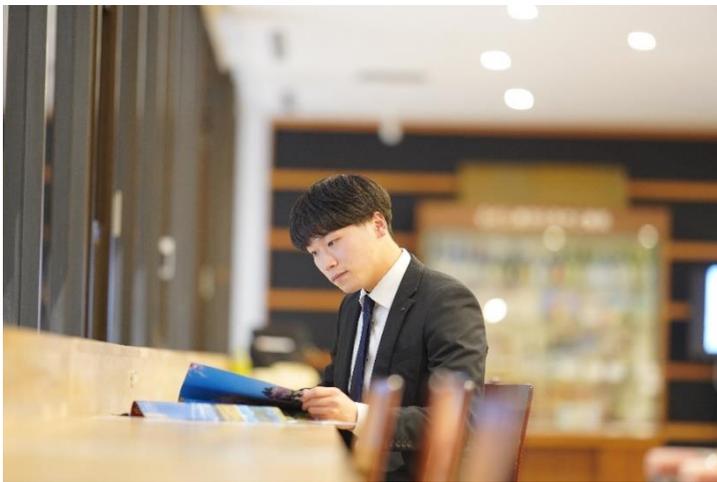


Q. どんな仕事が印象に残っていますか。

A. 観光の業務で印象に残っていることは、本県にゆかりがあるなしに関わらず、福島の魅力に惹かれ、地域の伝統・文化、コミュニティを守ろうと情熱をもって地域の発展に取り組む方々と関わることができたことです。その姿は大変刺激的で、自分も負けていけないとの気持ちを奮い立たせていただきました。

Q. 県職員を志望した理由

A. 私が県職員を志望した理由は、様々な角度から県の取り組みに関わることができ、その経験を通して自身の興味・関心の輪も広がると考えたからです。土木、財政、観光、ケースワーカー等、短いサイクルで異なる環境に身を置けることは好奇心旺盛な私には非常に魅力的に映りました。



Q. あなたをキーワードで伝えるとしたら、どんな言葉が思い浮かびますか。

A. 「脱他責思考」「神奈川からUターン」「英語と中国語を活かす」「休日は旅」

Q. 「英語と中国語を活かす」について教えてください。

A. 大学時代の短期留学をきっかけに将来は言葉の壁を越えて自分の価値観や大切なものを広く発信していきたいと考えていました。業務内で英語圏・中国語圏に向けてプレゼンテーションをする機会があり、夢への第一歩を踏み出すことができました。

Q. 「脱他責思考」について教えてください。

A. 問題に直面したとき、誰かのせいにするのは簡単です。ただし、その先には改善も成長もありません。社会人1年目の今年は自分の無力さを何度も痛感しましたが、問題を自分事と捉え、素直に向き合うことで常に成長し続ける人材になりたいと考えています。